自然観察NOW

野幌森林公園自然情報
2005.6.5　No.3
北海道ボランティア・レンジャー協議会

花に関する用語を調べる

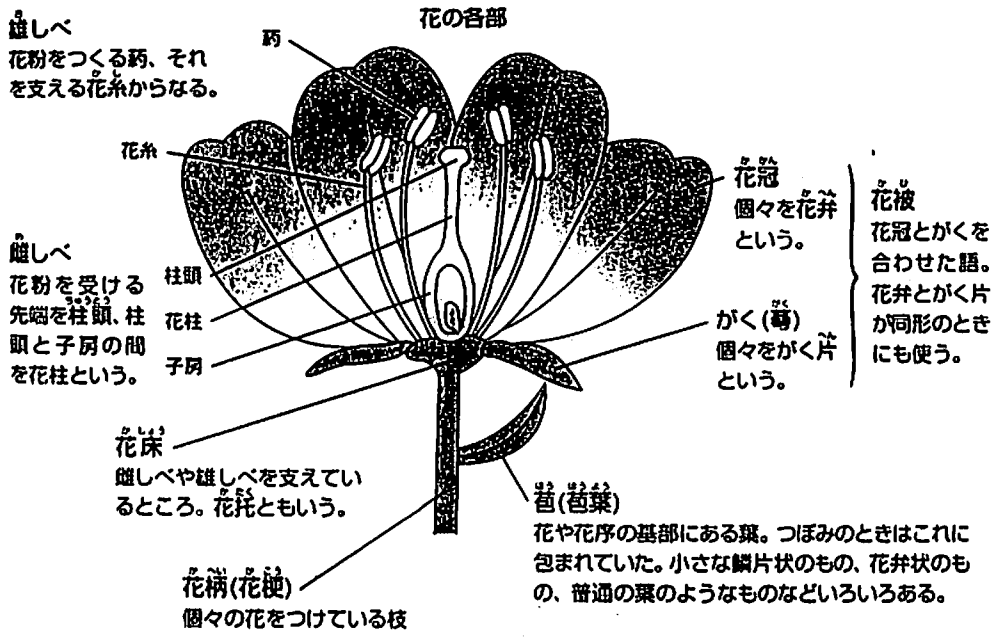
一斉に野草の花が咲きだし、植物観察に一番よい季節です。野草を見る時、人によって様々ですが、やはり花に注目する人が多いでしょう。特に花びら（花弁）の色や形に目がいきますが、それを花びらといいますか？、それとも花弁といいますか？。また、花びら（花弁）とは一枚一枚を指していいますか？。それとも全体を指しますか？。

植物観察では、種名を覚え、特徴を知る楽しさがあり、植物図鑑などを紐解くと、植物関連の用語がでてきます。この用語の意味がわからず、四苦八苦することがありませんか。

植物用語にこだわらず植物観察を楽しむことでもよいのですが、植物観察の共通語として理解していると、植物を見る観点や他の植物との比較に多いに役立ちます。

花は生殖に直接かかわるもの（雄しべと雌しべ）と、生殖を助けるもの（花弁や萼など）から成り立っているひとまとまりの生殖器官であり、葉と茎が変化してできたものと考えられています。このような意味を持つ、花の各部分の共通用語を知っていると、花を見る目も変わってくることでしょう。

- 無花被花（花被のない花）…花弁と萼がない。ヤナギ類はみな無花被花です。
- 単花被花（萼だけで花弁がない）…萼だけで花弁がない。キンポウゲ科の花はこれが多い。
- 両花被花（萼と花冠がある花）…萼と花冠がありその区別もはっきりしている。
- 等花被花（萼片と花弁がほぼ同形、同色）…萼片を外被花、花弁を内被花という。



（図の引用：写真で見る植物用語　全国農村教育協会）

イタヤカエデの花

イタヤカエデの黄色味がかった花があちこちで咲いています。花は雄花と両性花があり、地面に沢山落ちているのは雄花です。イタヤカエデはカエデ科カエデ属ですが、このカエデ属には、１２０種があり日本には２０数種が自生しています。

属名 Acer はヨーロッパ産のコブカエデのラテン名で「裂ける」という意味で、手のひら形に切れ込む葉形に基づくものです。和名は「板屋」、つまり板でふいた屋根のように、雨もりがしないくらい、よく茂るという意味のようです。

イタヤカエデの材は堅く、粘着力があり、人為的に曲げても折れにくく、この特性を生かしてアイヌの人たちは山刀の柄やサヤを作っていました。また、カエデ類の中で、含糖量が最も多いと言われます。この甘い樹液は、春になって根が活発に活動を始め水分を吸いあげるようになると前年の夏に蓄えたデンプンが糖化しそれが水にとけるからです。

ヤブサメの繁殖

森を歩いていると、繁みの中から「シシシシシ……」と姿は見えませんがヤブサメの鳴き声が聞こえてきます。全長１０㎝あまりの小さな鳥ですが、東南アジアから渡ってくる鳥で、繁殖の仕方が普通の鳥とちょっと違います。それは、複数の雄と１羽の雌が子育てをする巣が、全体の７０％以上もあるそうです。

この鳥は先に渡ってきた雄が「シシシシ…」の声で縄張り宣言をしている所に、少し遅れて到着した雌が縄張りの中に入ってきて気にいればつがいを形成し、巣を作り卵を産み抱卵します。

このとき、雄（この雄をＡとします）は寄り添って行動しています。ところが、雛がかえって育雛期にはいると、別の雄（この雄をＢとします）が現れ巣の近くでさえずりをしたり、巣をのぞきこんだり、時には雛に餌さえ与えます。この時になると、雄Ａは、雛への餌運びだけをするようになります。このような複数の鳥による子育ての意味は何なのでしょうか。

雄Ａは雛への餌運びにかなりの労力を割かなければならず縄張りの防衛がおろそかになります。

そこで、防衛行動を雄Ｂに肩代わりしてもらいます。雌は雄Ａに何かが起こったとき、すぐ代役になる雄を常に用意していているというメリットがあります。

一方、雄Ｂは育雛中の巣に関与することにより、雌の次の発情期に交尾をして自分の子孫を残すチャンスを得ることになります。

ヤブサメの繁殖は三者三様の必要性からこのような行動をすることが知られています。

6月・7月の観察会は？

●北広島レクの森観察会　６月１９日（日）　10:00~12:00 レクの森入り口

青葉の茂る森の中での観察会です。よく整備された観察路の道沿いで野草や野鳥のさえずりを聞きながら自然を楽しみましょう。

●葉っぱの観察会　７月１０日（日）　10:10~12:30 野幌森林公園　ふれあい交流館

葉っぱをテーマに据え森の中を歩きます。葉の大きさ、形、色、枝への付き方等々をしっかり観察して見ましょう。また、葉っぱに隠れて姿は見えませんが、野鳥の美しい鳴き声から野鳥の名前を判別してみましょう。